

## 「日なたのモミジ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私のボロい山小屋の周囲には、モミジの樹が多い。モミジの仲間には、翼果(よくか)という翼のついた種子を飛ばす、これが意外にも発芽率が良いので、林床には小さなモミジがたくさんある。私は10年前に、そのうちの1本を、庭に植えておいた。



植えた時は、こんなに小さかった。葉も1・2・3枚・・・と数えられるほどしかついていなかった。こんなに小さくても、秋になるとちゃんと紅葉するので、面白いと思った。



これが現在の姿。周囲に樹木がなく非常に日当たりが良いので、とても形良く成長し、秋になるとなかなか見事な姿を見せてくれる。この写真は南側から見た

姿で、特に日当たりが良いので、多くの葉は橙～赤に色づいている。写真を撮ったのは、10月中旬だが、地面にはすでに落ちた葉もたくさん見られる。



ところが、反対の北側に回って見ると、まだ緑色の葉が多い。日差しを遮るものはないが、モミジの葉そのものが、北側に影を作っているのだ。よく見ると、中心の幹そのものも、南東側に傾いている。これも日差しと関係がありそうだ。もしこの樹を根元から伐採すれば、切株の年輪も南側に広がっているはずだ。



これは東側か見たところだ。左(南側)と右(北側)の色づきの違いがよくわかる。子どもたちと秋に自然観察をする時も、このような落葉樹を探し、樹を囲んで「あーだこーだ」言わせると、きっと面白いだろう。